

会議結果のお知らせ

- 1 開催日時
平成29年1月10日（火） 午後3時00分から午後4時21分まで
 - 2 開催場所
岩手県立宮古病院2階会議室
 - 3 議題及び報告事項
(1) 宮古地域県立病院事業の運営状況について
(2) その他
会議資料等は、宮古病院内、県庁行政情報センター及び沿岸広域振興局行政情報サブセンターで閲覧できます。
 - 4 問い合わせ先
岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第1地割11番地26
岩手県立宮古病院 事務局
電話 0193-62-4011
-

会 議 録

- 1 日 時
平成29年1月10日（火） 午後3時00分から午後4時21分まで
- 2 場 所
岩手県立宮古病院2階会議室
- 3 出席者（敬称略）
委員 山本 正徳（会長）
佐藤 信逸（副会長）
伊達 勝身（代理 佐々木 寿行） 石原 弘

伊藤 勢至	佐々木 宣和
城内 愛彦	佐藤 雅夫
倉田 英生	千代川 千代吉
田名場 善明（代理 鈴木 昭治）	鈴木 光子
坂本 照男	中島 セイ
高橋 富士雄	村木 トシ子
横田 初恵	小笠原 信子
上屋敷 正明	佐藤 祐加子
刈屋 裕之	豊島 秀浩

事務局

（医療局本庁）

医療局長	八重樫 幸治	医師支援推進監	赤坂 高生
主査	澤田 厚		

（宮古病院）

院長	村上 晶彦	副院長	三浦 邦彦
副院長	菅原 俊道	副院長	白倉 義博
事務局長	鎌田 隆一	総看護師長	菊池 共子
副総看護師長	戸由 章子	薬剤科長	奥 尚

（山田病院）

院長	宮本 伸也	主幹兼事務局長	一井 誠
総看護師長	箱石 恵子		

4 会長あいさつ

皆様、引き続き運営協議会の会長の任を務めさせていただきます宮古市長の山本でございます。皆様方の意見をまとめて本協議会を進めて行きたいと思っておりますので、今後ともご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

5 病院長あいさつ

本日は、連休後の火曜日というご多忙のところ、多数、ご出席いただきまして、ありがとうございます。本協議会は、今後の宮古地域の県立病院の運営にとって重要な会議ですので、よろしくお願いいたします。

6 医療局長あいさつ

医療局長の八重樫でございます。運営協議会委員の皆様方には日頃から県立病院等事業に対して様々なご支援、ご協力を賜り、私からも改めて感謝申

上げます。

宮古地域につきましては、これまで仮設診療施設で外来診療を行っておりました山田病院が、昨年9月に山田町飯岡地区に再建し現在、入院病床50床の地域病院として運営しているところであります。

また、宮古病院につきましては、昨年10月に県内では5番目となります地域医療支援病院の知事承認を受けたところであり、宮古地域の基幹病院として救急医療、急性期医療、高度医療を担っているところであります。

医療局では、少子高齢化による医療需要等の変化に的確に対応して行くために病院現場をしっかりと支えて連携を取りながら取組んで行きたいと考えております。

本日の運営協議会で委員の皆様方から頂戴いたしますご意見・ご提言を今後の県立病院運営の参考とさせていただきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

7 議事

(1) 宮古地域県立病院事業の運営状況について【資料】

① 宮古病院の取組み状況 【村上院長より説明（スライド使用）】

お手元の資料の中に、昨年8月30日の台風10号による被害と当院の医療支援への対応をまとめましたので、後でご覧になってください。スライドの写真は、何か謝っているようにも見えますが、朝8時30分に外来で一斉に患者様に挨拶している様子です。

さて、宮古病院の収支ですが、昨年9月の状況は入院患者1日平均で34人減、収支1億1千万円の減でした。その後昨年11月の状況は、1千万円台の黒字、入院患者も1日平均11人減まで回復しました。

次に経常損益の前年度比増減をグラフにしたものですが、6月から大きく減少しましたが、10月、11月と回復し黒字となっております。ささきほど、医療局長からお話もありましたが、当院は地域医療支援病院の承認を得ており、その効果もあって11月は収支が良くなっています。

ここで、紹介いたしますが、昨年本県で開催されたいわて国体に当院の職員 細川久実子さんが参加し、活躍しております。

次は、宮古地域における平成21年からの医療機関別搬送状況です。傾向として、宮古病院への搬送割合が増加し、盛岡への搬送等が減少しています。なお、この図で宮古管内は、済生会岩泉病院のことでして、平成27年においては82%が当院へ救急搬送されています。

医療資源ですが、人口10万人対医師数のグラフを見ますと宮古地域

は岩手県で一番医師が少なく、病床数のグラフでは、精神病床が他の地域より多いのですが、一般病床が少ないのが特徴です。

昨年度から私が着任し医師確保に取り組んでおりますが、耳鼻咽喉科を再開、放射線治療科を新設しています。また、新たに4学会の認定施設として承認を得ています。

次は、損益と医師数の相関関係を示したグラフですが、かつては医師が、約50名いて収支も良かったのですが、医師が不足して傾いてきたことを示しています。現在、医師数は研修医5名を含む35名です。

当院の特徴の一つとして看護科でPNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）というものを導入しており、看護師2人がパートナーとなり看護業務と一緒に実践し、質の高い看護の提供を目指しています。新人看護師は、先輩看護師と一緒にケアして手技を学ぶことができ、平成26・27年度は、離職者が0人でした。

当院は救急医療24時間体制の病院です。年間約3,000台、1日平均で8.3台の救急車を受け入れており、医師1人当たりの救急車数は県内トップで一人当たり年間約81台です。当院における山田地域からの救急受診患者の割合は、平成25～27年度で全体の約17%、救急車利用による受診は全体の約20%に及んでいます。さらに山田地域からの救急車利用の患者のうち46.4%が入院しており、時間帯では時間内の受診が38%に留まり、残り62%が時間外の受診です。

入院患者の地域別では、宮古市が約70%、山田町が約17%、岩泉町が約4%となっております。

次の写真は、宮古地区広域消防本部において救急車から病院へ心電図を送るシステムを導入していただくこととなった新聞記事です。昨年度から救急車1台で試験運用し、74名の伝送、5名が心臓カテーテル治療で救命という実績を経まして、救急車全11台に搭載されます。

次に当院は、地域災害拠点病院です。昨年台風10号の被害では、災害直後は9月1日、2日とDMATを派遣し関係医療機関等と協力して済生会岩泉病院の入院患者を内陸に搬送する業務に従事しました。また、その後、9月6日～8日まで3日間、県病で最初に医療チームを派遣し避難所の巡回を行いました。「咲かせましょう支援の花を、見せましょう県立病院の底力を」をスローガンに一丸となりました。写真は、当院の東側から病室へ雨が吹き込んだ時の対応と済生会岩泉病院へ出動させたDMATの様子です。なお、このような災害発生に備えてトリアージ訓練を昨年度に行っています。

当院は地域がん診療連携拠点病院です。写真は、先週1月4日の新聞

記事ですが、地域のニーズがある限り、宮古病院はこれを辞めるわけにはいきません。今後、がん診療連携拠点病院の承認基準がいつそう厳しくなると思われ、また、医師確保も困難な状況ですが、盛岡へ行かなくとも化学療法や放射線治療を受けることができますので、何とか維持したいと思います。なお、平成27年度のがん登録数は、495例でしたが、今後は登録数500例以上が基準になると見込まれます。医師が少ないことから、これを維持して行くために、緩和ケア、医療安全、感染管理、NST等に係る認定看護師や認定薬剤師、放射線治療技師などが必要です。

先日、緩和ケア病棟が無いという旨の投書が新聞に掲載されましたが、緩和ケア科の設置は常勤医がいなかったため難しいことから、この度、毎週火曜日の午後から緩和ケア外来を新設しました。

写真は、「沿岸 子ども減少深刻」の記事ですが、当院は、産婦人科学会教育施設で院内助産もしています。宮古地域には、当院を含めて2施設のみです。分娩件数は震災直後の平成23年度に比べて増加しています。

次は、地域医療支援病院の承認を受けた際の「院長便り」です。昨年10月22日に開催し、市民約100名の参加があった市民公開講座の様子と同日に参加した宮古秋まつりの写真です。「地域を支え地域から支えられる病院」というプラカードを新調し掲げています。

次に、県立宮古高等看護学院ですが、三陸唯一の医療従事者養成機関です。ここで、平成12年に学院長でありました樋口 紘先生の書を紹介します。「人は神にはなれない でも 見も知らぬ他人の痛みを 自分の痛みとして 感じられた その瞬間 人は天使になる。」

また、宮古病院からは医師17名、看護師20名、助産師4名が看護学生への講義や実習指導を行っています。卒業生の70%以上が県内へ就職しており、入学を希望する方がいましたら是非お勧めします。

地域医療構想の宮古地域の問題として医療費抑制のため急性期病床を100床減らす方向で検討されています。平成27年度の病床機能報告を見ますと宮古病院は県内で8番目に急性医療指標の高い病院となっており、この地域の高度・急性期医療は当院が担わなければなりません。平成37年度の必要病床数と現在の病床数を比較すると急性期病床が現在約100床多く、回復期病床が約100床少ないことから、急性期病床を100床減らして回復期病床を100床増やすというのが地域医療構想の考え方です。

さて、当院は宮古市や関係機関と様々な連携を行っており、例えば、

宮古市医療情報連携ネットワーク（通称：宮古サーモンケアネット）や宮古地域がん診療医科歯科連携などがあります。

今後、日本では地域医療構想を基に急性期から回復期・在宅へのシフトと病床全体の削減を進めて行きます。宮古圏域の年齢別人口の変化は、2020年まで高齢者は減りません。さらに2040年には、約2人に1人が65歳以上、3人に1人が75歳以上になると予測されています。

当院は、10月12日の県医療審議会でも地域医療支援病院として承認されました。東北・北海道地区で一番に常勤の医師数が少ない地域医療支援病院かつ臨床研修指定病院と思われます。

また、新専門医制度が平成30年から始まり学会認定医・指導医の少ない病院が軽視され、地域医療構想で急性期病床が減らされて減益となり医師・看護師の雇用がいつそう悪化、ますます医療過疎へと向かうことが懸念されます。対策として、地域包括ケア病棟の導入を考えています。

当院の運営方針1ですが、医師会等の協力を得て紹介率50%以上・逆紹介率70%以上を維持し、地域医療支援病院の承認を継続することです。

運営方針2として、救急医療、周産期医療、がん医療を守り、無医地区への医師の応援の継続、患者大幅増により交代制で対応している透析室の拡大、新専門医制度への対応です。

ここでグラフを見ていただきますが、救急受診した膵胆道疾患の85歳以上の高齢の割合を県立中央病院と比較したものです。当院の割合の方が2倍も高くなっています。

宮古地域は、高齢化率の高い地域であり、認知症も増加、自力で食事や排泄が可能になるよう、リハビリを中心としてレスパイト（介護家族の休息のため）入院もできる施設が必要である。2ヶ月まで入院が可能である「地域包括ケア病棟」の導入を真剣に考えます。

「良い花はあとで咲く」宮古地域を支え、より信頼される病院をめざし、未来の宮古病院で働く職員に、現在の私たちが努力していくことで伝えることができます。きっと宮古病院に、良い花が咲くと思います。

② 山田病院の取組み状況 【宮本院長より説明（スライド使用）】

山田病院の基本理念は、「患者さんとの信頼関係をもとに安心と最善の医療をおこないます。」です。また、基本方針は、① 私たちは患者さんとの信頼関係を築くためにあらゆる努力をいたします。② 私たちは医療の質向上に努め、日々研鑽し責任感を持って診療を行い

ます。③ 私たちは地域との円滑な医療連携に努めます。④ 私たちは清潔で明るい環境づくりに努め、健全な病院にします。の4つを掲げて取り組んでいます。

病院の特色ですが、昨年9月から新病院として開院し診療を行っています。3ヶ月を経過し、まだ十分機能しているとは言えませんが、さらなる充実を図って行きたいと考えています。機能につきましては、一般病床50床を持ち、維持期・回復期のリハビリテーションを提供しています。現在、15床から22床程度の稼働となっており、50床を全て使うことは想定し難いことから、検査入院やレスパイト入院などを検討しています。また、在宅療養支援病院として在宅医療に取り組んでいます。

病院の運営については、常勤医師4名体制（内科3名、外科1名）です。59歳が3名と70歳が1名という状況ですが、幸い全員健康です。また、内科、小児科、整形外科、眼科、リハビリ科については、宮古病院からは小児科、整形外科、岩手医科大学等からは眼科等の診療応援をいただいています。在宅医療は、常勤医師全員で対応（月平均150回）しております。時間外の救急診療につきましては、宮古病院に対応してもらっています。訪問診療は、24時間往診体制をとっております。地域連携は、宮古病院や圏域の医療機関等との連携を行っています。なお、住民対話として毎月1回の出前健康講座、健康講座を町内9地区で行っており好評を得ております。

医師確保については、医師の任期付職員採用制度によるシニアドクターの採用推進の取り組みですが、新専門医制度の問題や現在の臨床研修制度のこともあって、若い医師が山田病院に来てくれるのは、非常に難しいと言わざるを得ません。そのため、ある程度勤務経験を積んで退職した等のシニアドクターの確保を進めて行きたいと考えています。また、臨床研修の協力施設としての初期臨床研修医の受入れを進めて行きます。それから山田町及び山田町の地域医療を守る会と協力しながら医師確保活動を行っています。

新病院については、慢性疾患等のある高齢者を中心とした地域医療を行います。また、医療機関や介護施設等との役割分担、連携を推進します。地域医療構想を基に宮古医療圏で不足すると予測される回復期病棟機能を提供します。今後、山田病院にも電子カルテを導入する予定ですが、宮古病院と相互に患者情報を共有することができます。なお、電子カルテのサーバーは盛岡に設置し、震災時のように情報を喪失しないような構築とします。また、宮古サーモンケアネット等の

医療情報ネットワークを活用します。在宅療養支援病院として在宅医療を推進します。病棟看護師の夜勤において2交代制を導入する等、効率的な病院運営、勤務環境改善を進めていきますのでよろしく願いします。

③ 圏域内の一体的運営の状況・医療資源・患者の状況・経営収支について 【鎌田事務局長より説明】

宮古医療圏の県立病院の医療資源等の状況ですが、宮古病院の稼働病床数は、一般279床、結核10床、感染4床、計293床であり昨年度と変更はありません。山田病院は、9月から一般50床です。

次に患者の状況ですが、宮古病院の1日平均入院患者数は、11月末現在で226名、山田病院が13名で医療圏計では、239名です。宮古病院の昨年度の1日平均患者は238名であり、12名の減ですが、山田病院も加えた医療圏計では同様の患者数となっています。

病床利用率については、11月末現在で宮古病院が79.7%、山田病院が26.1%です。

外来診療の1日平均患者数ですが、宮古病院は11月末現在で459名、山田病院は78名、医療圏計で537名です。

宮古地区の救急患者搬送件数ですが、宮古病院の27年度救急患者数は、急病が2,145名、交通事故が169名、その他が603名です。26年度より急病が101名、交通事故が28名の増加となっています。宮古地区全体の合計では、27年度が3,267名で26年度より54名増加しています。宮古病院の合計は2,917名となるので宮古地区の約89.3%が宮古病院へ搬送されています。

地域外医療機関搬送件数は、合計で27年度が296名と26年度が297件でしたので、ほぼ同様の状況です。

市町村別県立病院利用状況（11月分）ですが、宮古病院の入院患者のうち4,779名、73.0%、外来患者のうち7,185名、76.4%は宮古市の患者です。また、山田病院の入院患者のうち318名、81.3%、外来患者2,291名、97.0%が山田町の患者です。

保険種別利用状況（11月分）ですが、後期高齢者（75歳以上）の欄を見ますと宮古病院の入院患者のうち49.9%、外来患者のう

ち31.5%が75歳以上です。山田病院では、入院患者のうち76.7%、外来患者のうち47.4%が75歳以上です。

経営収支の状況ですが、11月末時点において宮古病院は差引損益▲320,240千円、比較増減で▲40,657千円のマイナスとなっています。大きな要因としましては、患者数の減少です。

山田病院は差引損益▲155,882千円、比較増減で▲68,556千円です。9月から入院診療を行っていますが、費用の増加が大きな要因です。

平成27年度の決算の状況ですが、宮古病院は差引損益が▲151,733千円、経常損益で▲137,571千円です。累積損益は、248,056千円です。

山田病院は、差引損益が▲41,326千円、経常損益で、▲40,917千円です。累積損益は、▲3,662,182千円です。

質疑応答

(佐藤 信逸 副会長)

日頃より当地域の医療確保にご尽力いただき、感謝申し上げます。ただ、収支を見ますと厳しい状況となっています。

山田病院に関して、今後、どのくらいの患者数で収益が改善に向かうのでしょうか。また、宮古病院では、祭りで「地域を支え、地域から支えられる病院」と掲げたとのことですが、「地域から支えられる」に関して自治体として何かできることがありますか。

(宮本 伸也 院長)

経営状況は、仮設診療所の時点から厳しい状況です。新病院になって職員が増えた分の支出が増えて収支が悪化しています。内科の常勤医が増えて外来患者数も増加したが、どのくらい患者数が増えたら採算が合うかというレベルではありません。昨年度、沿岸の黒字病院は無く、置かれた状況下では黒字にするのは大変難しいと考えられます。収支については、県立病院全体で考えて行くしかないだろうと思います。

来院される患者さんの不満は、病院へのアクセス（交通機関）の状況であり、アクセスが良くなってくると山田町民が病院を利用しやすくなって、患者数も増えるのではないかと考えています。

(村上 晶彦 院長)

当院は、地域医療支援病院の承認を受けるため、医師会の先生方等から助けていただきまして、1年間の平均で紹介率50%以上・逆紹介率70%以上を満たすため実績を積み上げてきました。また、宮古病院は、救急医療が大切ですが、例えば、山田病院の出前講座の中で、コンビニ受診を控えていただきたいなどの救急受診のしかた等の話を2回ほど行っています。そのような意味で「地域を支え、地域から支えられる病院」と掲げたもので、人口減少や医師不足という状況にはありますが、使命を果たすため様々な努力を続けたいと思います。

(佐藤 信逸 副会長)

コンビニ受診の問題については、今後とも啓蒙していく必要があると思います。ありがとうございました。

(伊藤 勢至 委員)

宮古病院がここに開院したのが平成4年でしたが、当時からのテーマでありました北部環状線道路が今年の12月23日に開通しました。救急車が山口から5分で来ることができ、かなり時間が短縮されましたので、病院には頑張っていたいただきたいと思います。我々が病院に対して出来ることは、後方支援ですので、今後も後方支援を続けて行きたいと思います。

さて、もう1つ大事なテーマですが、医師になりたい子供達が少なくなっているのではないのでしょうか。岩手県では、昨年、国体を開催しましたが、総合8位、天皇杯・皇后杯では2位という成績を収めました。運動能力の高い子供たちをピックアップして選手育成の取り組みを行い成績が上がりました。同様に医師についても子供達が小さい頃から取り組みを行わないと、大学を出て研修医を終えた新人医師を奪い合うようなことは、いかななものかと思います。小学校・中学校の子供達に憧れを植え付けて育てていかなければなりません。医師や看護師になりたい子供達にアプローチをつけるのが我々、大人の務めではないのでしょうか。

(村上 晶彦 院長)

立派な道路の開通にご尽力いただき、ありがとうございます。

子供達の育成については、菅原副院長を中心に中学生医師体験を年2回実施することとし、本年も行っています。今後も継続して行きます。

なお、本日、宮古市の奨学生と面談しましたが、初期研修を当院で行って

もらいたいと常々お話ししています。

また、岩手医大の5年生が10人ほど1ヵ月間来ますので宮古地域は良いところだと印象付けて、医師が来るよう盛り上げて行きたいと思います。

(八重樫 幸治 医療局長)

伊藤先生からもお話があったとおり、いわて国体でスーパーキッズで養成した子供達が大きくなり天皇杯・皇后杯に貢献しましたが、同じように地域枠の奨学生として、経済的事情で医師になりたくともなれないような子供達を対象に平成20年度から地域枠を作りまして、現在、宮古高校出身の子供達が医師を目指して学んでいます。

医療局としても今後とも様々な体制整備に注力したいと思っております。

(山本 正徳 会長)

震災があった正にその日に宮古市医師等養成奨学資金貸付条例を議会で議決していただき、毎年、宮古市の奨学生を募集しています。学費、入学金を全て市が負担するものです。今までに2名の実績があり、こちらに帰ってくる度に宮古病院にお願いして訪問させていただき、将来は宮古に帰ってきてくださいということで実施しています。

また、同時に看護師の奨学生も2名ほどいます。それらも市内の高校を回って宮古市にも制度があることをお知らせしています。お金が有る無しにかかわらず、高い意志を持って医療に取り組む人間を応援するので、その代り、学校を終わったら我々のところも応援してくださいという形でやらせていただいています。

県の地域枠は、ここ何年かに渡って毎年1人か2人が入っています。ただ、県の地域枠は、果たして宮古に帰って来るのか疑問な点があります。一方で宮古市の地域枠は、奨学生となるべくコンタクトを取って何回も面接をして宮古市に来てもらえるようやっております。

それから、北部環状線ですが、山口から佐原までは県にお願いして県代行で工事をしていただきました。今度は、平成30年まで山口から近内まで、さらに西ヶ丘へ通りますので、宮古病院までのアクセスが良くなり、津波が来ても浸水しない安全な道路ですので宮古病院が益々使い易くなるだろうと思っております。

(佐藤 信逸 副会長)

山田から宮古病院前まで北部環状線の全線が開通しますと山田町から約二十数分で来ますので救急医療体制がより充実し地域の支えとなります。

(山本 正徳 会長)

来年度には山田から金浜までは通りますので、そこから再来年には千徳大橋を通り近内を通って宮古病院へ来ます。平成32年には金浜から三陸沿岸道か北部環状線の北インターを通って宮古病院へ来ます。徐々に道路が通って、近づいて行きます。

(石原 弘 委員)

急性期と慢性期の病床の問題がありますが、制度としては分かるのですが、現場の意見が疎かにならないよう、県医療局ではある程度ソフトランディングを行って地域医療が疲弊しないよう要望した経緯がありますが、是非、型通り進めるのではなくて現場思考でお願いしたいです。

この資料に私は、無いものがあると思いますが、田野畑村は医師がいなくて、土日の問題についても様々な議論がありました。たまたま1人の医師が犠牲になって頑張ったということをよく感じていただきたいとお話をしたことがありました。医師が少なく苦しい中で病院の医師は身を粉にして働いていると思いますが、そういうことを改善し流れを作る必要がある。この資料で赤字ということばかりでなくて、その中で職員が頑張っていることや宮古病院と山田病院は包括ケアの問題と保健的な要因を加味して活動的なこともやっている。赤字・黒字だけで物事を決めるということだけでなく活動等を加味しての評価していただければ有り難いことと思います。

(八重樫 幸治 医療局長)

ありがとうございました。地域医療構想につきましては、2025年のあるべき姿を議論しておりますが、直ちに病床を削減するものではないというのが、医療局あるいは県保健福祉部含めまして共通の認識です。今日は、地域の病院から村上院長、宮本院長が出席し、様々な意見等を申し上げておりますので、しっかりと対応して行きたいと思っています。

経営の関係につきましても地域における医療供給体制を維持するということは、公的医療機関である県立病院の役割ですから、しっかりと現行の体制を維持し県立病院全体の中で収支均衡を目指して行きたいと思っています。

(山本 正徳 会長)

その他、何かご意見等ありますでしょうか。

無いようですので、これにて議事を終了し、進行を事務局にお返しします。

ご協力ありがとうございました。

6 運営協議会委員名簿（敬省略）

区分	現職	氏名
市町村	宮古市長	山本 正徳
市町村	山田町長	佐藤 信逸
市町村	岩泉町長	伊達 勝身
市町村	田野畑村長	石原 弘
学識経験者	岩手県議会議員	伊藤 勢至
学識経験者	岩手県議会議員	佐々木 宣和
学識経験者	岩手県議会議員	城内 愛彦
医療関係団体	宮古医師会長	佐藤 雅夫
医療関係団体	宮古歯科医師会長	倉田 英生
医療関係団体	宮古薬剤師会長	千代川 千代吉
関係行政機関	岩手県宮古保健所長	田名場 善明
婦人団体	宮古市地域婦人団体協議会長	鈴木 光子
社会福祉関係団体	山田町民生児童委員協議会長	坂本 照男
その他	宮古市保健推進委員	中島 セイ
社会福祉関係団体	山田町社会福祉協議会事務局長	高橋 富士雄
その他	宮古市食生活改善推進委員協議会長	村木 トシ子
婦人団体	宮古市交通安全母の会連合会長	横田 初恵
その他	宮古漁業協同組合女性部副部長	小笠原 信子
その他	山田町商工会青年部長	間瀬 慶蔵
その他	新岩手農業協同組合宮古営農経済センター 青年クラブ事務局長	上坂 喜和
その他	山田町立図書館おはなし広場代表	佐藤 祐加子
その他	宮古市国民健康保険運営協議会委員	上屋敷 正明
その他	宮古市子ども会育成会連合会長	刈屋 裕之
その他	宮古市新里地域協議会委員	山崎 裕子
その他	宮古市いきいきシルバーライフ 推進協議会長	豊島 秀浩